令　和　４　年　度
千　早　赤　阪　村　立　学　校
評　価　報　告　書

学　校　名（赤　阪　小　学　校）
校　長　名（當　麻　裕　彦）

１．教育目標

「一人ひとりが輝く元気な学校　ふるさと　赤阪小学校」

「強く」・「正しく」・「朗らかに」

元気な子　考える子　やさしい子　根気よく取り組む子　手伝う子　工夫して学ぶ子

① GIGA スクール構想は二年目の進化へ
～教育の個別最適化　ハイブリッド型指導の充実～
② ともに学び、ともに育つ」支援教育の視点を踏まえた学校づくり
③ 地域学校協働本部活動・特色ある学校づくりの推進

２．経営方針

■GIGA スクール構想は二年目の進化へ
教育の個別最適化　ハイブリッド型指導の充実

〇3観点に基づく学力の育成
授業形態が多様化したとしても変わることのない「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に基づく学力を育む授業づくりに取り組む。つけたい力を明確にして主体的・対話的で深い学びを実現する。

〇人材観・学力観・授業観のアップデートを
GIGAスクール構想で次の時代に求められる人材観が変わり、そのために必要な学力観も変わっている。それに伴う授業観のアップデートを行う。また、紙かデジタルか、体験かバーチャルかの二者択一ではなく、状況に応じてよりよい方法を選択できるスキルの育成を行う。

〇文科省「学習者用デジタル教科書活用事業」参加校としてデジタル教科書を活用した学習の工夫、クラウド学習ツールの活用した学習の工夫、AIドリル等のソフトも活用しながら個別最適化された学び・双方向型学習・協働的な学びを充実させていくことで、主体的・対話的で深い学びへとつなげる。

■「ともに学び、ともに育つ」支援教育の視点を踏まえた学校づくり

〇すべての子供が学びやすい赤阪小学校をめざして。
　ユニバーサルデザイン【UD】に基づく「授業づくり」と「学校環境整備」
　そして「学校体制・組織づくり」を進める。

〇「チームあかさか」で迅速かつ的確な情報共有で学校の強みを。
　信頼される学校であるための組織的対応の日常化を全教職員で図る。

〇児童観、指導観の共有
　少人数である事を生かし、一人ひとりに寄り添い、背景にある保護者の願いにも配慮した「学級経営」「授業づくり」を行う。
　教職員全員で全校児童の教育に関わる姿勢を基本にして、一人ひとりの児童の教育的ニーズに応えられる学校体制の構築を心がける。

■地域学校協働本部活動・特色ある学校づくりの推進

〇「子ども育みボランティア」の発展に努め、学校と地域が協働して、学校教育における課題に取り組む体制づくりを整え、地域の資源を本校教育に生かす取り組みを進め、特色ある学校づくりを進める。

〇郷土である大阪府唯一の村、千早赤阪村に愛着と誇りをもつ子供たちを育むために、歴史学習、自然、名所、旧跡に親しむなど郷土にちなんだ学習を積極的に行う。

〇少人数、小規模のメリットを生かした教育活動を展開し、特色ある学校づくりに努める。

３． 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅰ 社会を生き抜く、確かな学力づくり
P	重点目標	Ⅰ(1)図書館教育について工夫発展し、読書習慣を育むとともに、ノート指導の充実で学力の向上を図る。 Ⅰ(2)外国語教育の授業力を維持・発展させる。 Ⅰ(3)GIGA スクール構想は2年目の進化へ 教育の個別最適化 ハイブリッド型指導の充実 Ⅰ(4)「ともに学び、ともに育つ」教育を基本に、個に応じた教育を充実させ、また、支援教育における「自立」の時間をより充実させる。
D	具体的な取り組み内容	Ⅰ(1)・朝読書の実施で読書習慣を定着させる。 ・図書委員会の取り組み等で読書への興味関心を高める。 イベント期間に廊下にテーマを設定した図書の特設コーナーを設ける。 ・学校図書館司書の活用で授業に必要な図書をまとめて借用し、学習に活用する。 Ⅰ(2)外国語教育の校内研修、研究授業を複数回実施する。 ・ALT を講師として5月 17 日に校内研修を実施 Ⅰ(3)・一人一台の端末の授業での積極的な利活用を行う。 ・学習者用デジタル教科書活用事業」参加校としてデジタル教科書を活用した学習指導の工夫、グーグルクラスルームなどのクラウド学習ツールや AI ドリルを活用し、個別最適化された学び、双方向型学習・協同的な学びを充実させることで、主体的・対話的で深い学びへとつなげる。 Ⅰ(4)ユニバーサルデザインの観点を取り入れた「授業づくり」や自尊感情を高める「集団づくり」を進め、全ての子供が学びやすい赤阪小学校にしていく。
C	自己評価／成果と課題	Ⅰ(1)・図書委員会による「梅雨時にじいろブックフェア」実施し、また、月に2回 5.6 年生に金曜日の朝の会の時間に司書によるブックトークの実施、また学期に2回以上各学年で授業での貸し出し図書の活用など、年間を通じた読書啓発ができた。 Ⅰ(2)大学の学長を招聘して外国語の研究授業を実施。職員間の研究協議も活発に行い、外国語教育の授業力の維持、向上ができた。 Ⅰ(3)一人一台の端末利用は、新しい文房具として定着している。デジタル教科書を活用した授業も日常的に実施できている。グーグルクラスルームや AI ドリルの活用、また双方向型学習やロイロノートの活用についてより一層の活用が次年度への課題である。 Ⅰ(4)「みんなが学びやすい赤阪小学校をめざして」の冊子を全員に配布して UD についての環境づくりや UD の観点の取り入れた授業づくりは進んだ。 また、支援教育・通級指導に関する情報交流会な丁寧な実施で成果が上がった。
A	次年度に向けて	Ⅰ(1)学校図書館司書が継続配当されるかどうかが大きな要素ではあるが、継続配当されない場合には、これまでの積み上げてきた実績を意識して維持していくことが必要である。 Ⅰ(2)引き続き年間2回以上の研究授業で外国語教育の授業力を維持・発展させること。 Ⅰ(3)ロイロノート活用の研究 Ⅰ(4)支援教育における「自立」の時間のより一層の充実と、個別学習の組織的な推進。

３．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ　豊かな心、たくましい人づくり
P	重点目標	2（1）キャリア教育全体指導計画をもとに、体系的に発達段階獲得目標を意識した取り組みを充実させる。 2（3）人権教育全体計画・学年別指導目標をもとに体系的、計画的に人権教育を充実させる。 2（4）アクションプランに基づき、体力テストの結果を活用し、健康な身体、体力の向上を図る。 2（6）郷土である大阪府唯一の村、千早赤阪村に愛着と誇りをもつ子供たちを育むために、歴史学習、自然、名所、旧跡に親しむなど郷土にちなんだ学習を積極的に行う。
D	具体的な取り組み内容	2（1）各学年の中心活動を設定し、学年に応じたキャリアパスポートの活用、「つながる」「わかる」「えがく」「きめる」「チャレンジ」のキーワードを意識し、つけたい力を獲得させる。 2（3）・授業では人権教育の観点を意識する。研究授業の学習指導案には「人権教育の視点」という文章を入れる。 ・校務分掌に人権教育・ジェンダー平等教育担当者を置き、全校的な取り組みを進める。 2（4）・5月の新体力テストでは府教育庁から担当指導主事を招聘 2（6）・わんぱく遠足で校区の歴史旧跡に親しむ活動を行う。 ・総合的な学習で千早赤阪村の良さを紹介するプロジェクト学習を進める。
C	自己評価／成果と課題	2（1）学年に応じたキャリアパスポートの活用で、キャリア教育に関する発達段階に応じたつけたい力の習得は進んだ。 2（3）・教育活動全体を通じて「人権感覚」を尊重する姿勢が進んでいる。 ・男女別標準服の見直しなど、ジェンダー平等、人権教育の全校的な取り組みを進めることができた。 2（4）・かけ足記録会では、各自の過去の記録から目標値を設定した取り組みを推進したことで、各自のかけ足の能力が伸びた。 ・新体力テストで見えてきた課題を分析し、対応策を策定した。 2（6）・校区での全校遠足、林業体験授業、楠公史跡保存会や建水分神社の方の郷土学習、郷土資料館の見学、総合的な学習での村おこしのプロジェクトなど、郷土に愛着と誇りを持つ子供たちを育む教育活動は大きく進んだ。
A	次年度に向けて	2（1）キャリアパスポートのより一層の活用と、キャリア教育の各学年での充実。 2（3）・「人権感覚」「ジェンダー平等」のより一層の充実、標準服の長ズボン導入。 2（4）・体力テスト、運動会、かけ足、なわとびなど体力づくりの視点からの改善。 2（6）・進んだ郷土に愛着と誇りを持つ子供たちを育む教育活動の維持。また、総合的な学習の全校的な年間計画の見直しから、学年を越えた集団で学び合う「イエナプラン」を参考にした取り組みへの着手。

３．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり（3-1 安心安全な学校づくりの推進）
P	重点目標	3（1）「いじめ」「登校しぶり」「心の変化」等の早期発見 早期対応 未然防止に努める。 3（2）ユニバーサルデザインに基づく安心して過ごせる環境整備 仲間づくり 3（3）いざというときのための防災に関する知識・判断力・行動力を身につけさせる。 3（4）食育の充実に加えて学校としての食物アレルギー対応能力を高める。
D	具体的な取り組み内容	3（1）・毎月の「こころとからだと、くらしのアンケート」の実施と情報共有 ・校内支援委員会を必要に応じて開催し、丁寧な児童理解を進める。 ・いじめ不登校対策委員会（IF 会議）の定期的な開催 ・安心してすごせる学級集団 縦割り集団づくり 3（2）・黒板回りの掲示物の工夫 ・見通しやめあてを示すなど UD の観点からの取り組みを各学年で実施 3（3）・学校防災マニュアルの整備とその活用 3（4）・食物アレルギー対応研修の実施 食育指導の充実 給食指導の充実
C	自己評価／成果と課題	3（1）・「こころとからだと、くらしのアンケート」で児童の少しの変化を捉えることができた。 ・校内支援委員会や定期的なスクールサポーターミーティングなどを実施し、支援教育に関する課題対応ができた。 ・SSW が同席していじめ不登校対策委員会（IF 会議）を毎月実施でき、対象児童についての取り組みの共有や教育支援センター（くすのきホール）との連携ができた。 ・縦割り集団（わんぱく班）活動がコロナ禍の昨年よりも多く実施でき、子供たちの仲間づくりが進み、子供たちの達成感をもつ児童も増加した。 3（2）・黒板回りの掲示物の工夫や見通しやめあてを示すなど UD の観点からの取り組みについては「みんなが学びやすい赤阪小学校をめざして」の研究冊子をもとに各学年で実施できた。学校防災アドバイザーからもマニュアルの内容について評価を得た。 3（3）・学校防災マニュアルをもとにした避難訓練が実施でき、防災の観点からの教育活動も進んだ。 3（4）・給食指導については、テレビ局が本校の食育や村の給食について取材に複数回来るなど、村の給食や食育は注目され、成果が認められた。
A	次年度に向けて	3（1）人事異動で職員が入れ替わっても揺るぎなくいじめの早期対応 未然防止ができる組織づくり 3（2）・整備してきた UD 環境や授業づくりなどの維持 3（3）・学校防災マニュアルを活用した教育活動の見直し。 3（4）・注目されている村の給食や食育のすばらしさをアピールした村や学校の活性化につながる学習材の開発

３．本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅲ 魅力ある教育環境づくり（3-2 学校および教職員の資質向上）
P	重点目標	4（1）学校評価について PDCA サイクルを意識し、教職員全体で組織的に取り組む。 4（2）「探究と協働で学びを創る子どもの育成」をテーマに総合的な学習の年間計画の見直しを進めるとともに校内研修の充実を図る。 4（3）校務支援システム、クラウドツール等の活用で職務を効率化し、働き方改革を進める。 4（4）「子ども育みボランティア」を活用し、地域学校協働活動を利用した地域との連携を進める。
D	具体的な取り組み内容	4（1）・学校教育目標の組織的共有、教職員の評価育成システムの活用による組織的取り組み ・学校評議員・地域や保護者等の意見を把握し、学校運営に生かしていく。 4（2）・大阪府小学校生活・総合教育研究会研究授業の実施 ・総合的な学習の年間計画の抜本的な見直しを実施 ・外国語の授業力維持発展のための研究授業の実施 ・校内研修の活性化 4（3）グーグルクラスルーム・クラウドツール・通信システムを活用した教職員間の情報共有 4（4）昨年度組織的にできた「子ども育みボランティア」の活用で発展的活動充実
C	自己評価／成果と課題	4（1）・学校教育目標と連動した、教職員の評価育成システムの目標設定面談や開示面談活用による丁寧な管理職と職員の意思疎通を進めることができた。 ・学校評議員・地域や保護者等の意見の把握、学校運営への活用ができた。 4（2）・大阪府小学校生活・総合教育研究会研究授業の実施をきっかけに総合的な学習の年間計画の抜本的な見直しへの見通しができた。また、その先の総合的な学習のカリキュラムを軸にした教科横断学年横断を見通した「イエナプラン」の方向性も見えてきた。 ・校内研修は活性化できたが教員の多忙感、疲労感が大きくなったことが課題である。 4（3）グーグルクラスルームを活用した「年度末総括会議」では様々な成果や課題、改善策についてリアルタイムで情報共有することができた。 4（4）「子ども育みボランティア」の拡大はなかなか進めることができなかった。
A	次年度に向けて	4（1）・教職員の評価育成システムを有効に活用した管理職と教職員の丁寧な意思疎通はこのまま意識的に進めること。 ・学校評議員・地域や保護者等の意見の把握に努めること。 4（2）・総合的な学習の年間計画の作成と、教科横断学年横断を見通した「イエナプラン」への数年計画でのロードマップの作成。 ・教職員の働き方改革 4（3）グーグルクラスルーム・クラウドツール・通信システムのより一層の活用 4（4）「子ども育みボランティア」の発展的活動充実

４．教育自己評価

【教職員による評価】教職員アンケートの集計結果より

	項　　目	肯定的評価	否定的評価
1	この学校の教育課題について、教職員で日常的によく話し合っている。	94%	6%
2	各年度の教育計画の作成に当たって、教職員でよく話しあっている。	94%	6%
3	この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある。	94%	6%
4	様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で心がけている。	88%	12%
5	教育活動全般にわたって評価を行い、次年度の計画に生かしている。	94%	6%
6	いじめ・不登校などの問題がおきた時、組織的に対応できる体制が整っている。	100%	0%
7	新学習指導要領実施、新しい教育課題への対応について積極的に研修を実施している。	100%	0%
8	各教科の指導内容について、基礎・基本を明確にし、教材、教具の工夫を行っている。	94%	6%
9	各教科等の授業において、ICT 機器の特性を生かして活用している。	100%	0%
10	教科横断的で総合的な学習に取り組んでいる。	88%	12%
11	思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。	88%	12%
12	学校行事について児童にとって魅力あるものとするために、 工夫・改善を行っている。	100%	0%
13	課題別・習熟度別学習やTTによる学習指導等、個に応じた学習形態の工夫・改善を行っている。	94%	6%
14	学習が遅れがちな児童への対策を、全校的課題として取り組んでいる。	88%	12%
15	学習意欲の高い児童に対する学習指導を、個に応じた視点で 工夫して行っている。	88%	12%
16	学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。	100%	0%
17	校長は、教職員一人ひとりが意欲的に学校経営に参画できるようにしている。	100%	0%
18	児童のキャリア教育に学校全体で取り組んでいる。	88%	12%
19	人権問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している。	94%	6%
20	障害者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している	94%	6%
21	体罰やハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている。	100%	0%
22	この学校では、各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	94%	6%
23	職員会議をはじめ各種会議が、学校運営に生かされている。	94%	6%
24	日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができている。	100%	0%
25	事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。	100%	0%
26	施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。	100%	0%
27	子どもたちの安全教育・安全管理を学校として計画的に行っている。	100%	0%
28	校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。	100%	0%
29	研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。	81%	19%
30	学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。	76%	24%
31	個人情報保護の観点から、児童の個人情報に関する管理システムが確立している。	94%	6%
32	中学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている。	94%	6%
33	生活指導において、家庭や関係諸機関との緊密な連携ができている。	94%	6%

【外部アンケート等】

保護者アンケートの集計結果より

	項　　目	肯定的評価	否定的評価
1	子供は、楽しく学校に登校している。	95%	5%
2	学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく伝えている。	87%	13%
3	学校は、特色ある教育活動を行っている。	94%	6%
4	学校は保護者・地域の願いに応えている。	85%	15%
5	学校での子供の学習活動・様子について、配布物や学校からの連絡、ホームページ等で知ることができる。	95%	5%
6	学校は学習のつまずきを把握し、一人ひとりの子供に応じた指導や支援をしている。	87%	13%
7	学校は豊かな心を育むための学習や体験活動にとりくんでいる。	92%	8%
8	通知表「のびる子」は、子供の学力や達成度を知るようにできている。	90%	10%
9	学校では環境、国際理解、食育、福祉、プログラミング教育等の様々な教育課題について子供に学ばせている。	90%	10%
10	学校では子供の人権を尊重する教育活動が行われている。	89%	11%
11	学校は、子供に生命を尊重する心や社会のルールを守る態度を育んでいる。	84%	16%
12	学校では防災学習、交通安全、不審者対応などの防災、安全教育について子供に学ばせている。	85%	15%
13	学校では他学年とのたてわり活動(わんぱく班)を行い、友だちを大切にする仲間作りに取り組んでいる。	97%	3%
14	学校は子供のたちの体力向上・運動についての関心を高める取り組みを行っている。	90%	10%
15	運動会、学習発表会、参観、懇談等の行事は参加しやすい。	92%	8%
16	PTAは積極的に活動している。	82%	8%
17	学校は感染防止対策に努め、工夫して教育活動を行っている。	90%	10%

【アンケート結果より】（アンケート回収率は78％でした）

新型コロナ感染症の影響下の3年目の今年度は、制約はあったものの概ね教育活動は実施することができました。全ての設問を平均すると、肯定的評価（プラス評価）が90％でした。それぞれの教育活動への評価とご理解をいただきありがとうございました。昨年度に比較して大きく伸びた設問は「③学校は、特色ある教育活動を行っている」という設問です。昨年度の結果は肯定的評価が77％でしたが、今回は94％になりました。学校としても、本校の特色ある教育活動に努力し、わんぱく班活動の充実に加え、村郷土学習（建水分神社禰宜、楠公保存会理事長の出前授業・林業体験・村おこしの総合的な学習)などには新しく取り組みました。ここを評価いただけてうれしく思います。また、「⑩学校では子供の人権を尊重する教育活動が行われている」という設問では、昨年度の肯定的評価は80％であったのに対して、今回は89％が肯定的評価になっています。こちらも、学校としては一人ひとりの個性に応じた個別最適化の学習や丁寧な聞き取り、人権意識の向上に教職員全員が意識して取り組んできたことが評価されてうれしく思います。ありがとうございます。今後も教職員でよく話し合い情報共有してチームとして教育活動をより良いものに改善していく努力を続けてまいりますので、今後ともどうか本校教育へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

５．学校関係者評価

【学校評議員による評価より抜粋】

〇朝の通学時間に横断歩道に立ち子供たちにおはようと声をかけている校長先生の姿をお見かけしました。校長先生はじめ教職員の方々を身近に感じ、子供たちが何かあれば相談しやすい環境づくりをしてくれているのだと感じました。

〇折に触れて学校のホームページ（HP）は見させていただいていたのですが、今回提言シートを書くに当たり、学校の HP をゆっくり見させていただきました。校長先生の日々学校の様子を保護者や地域へ伝えようとしている姿勢が明確にわかります。おそらく保護者もこの HP を見ることで安心されていることだと思います。日々、大変お忙しい中での更新だと思いますが、様々な視点から学校の様子を今後も伝えていってほしいと思います。アクセス数がどんどん増えていっていることが励みになりますね。いろいろな小中学校の HP を見させてもらうがなかなかこれほど充実している HP は他にない。作成に手慣れたら更新も容易くできるかもしれないが、なかなかそこまで至らないと他の学校の管理職からの声を聞くことが多い。機会があれば他の学校の管理職にも研修会などで伝授してはと思います。後の校長先生への引継ぎがスムーズにいけばいいなと思います。

〇昨年度は一人一台のタブレットということで、新しい「文房具」という表現で子ども、保護者にその活用について周知されたのは良かった。文部科学省は GIGA スクール構想に更に「個別最適な学習」と「協働的な学習」を現場に求めている。校長先生が今年度提唱された「ハイブリッド型指導」とのバランスを考え、最先端のみを追うのではなく、これまで培ってきた赤阪小学校の教育にいかに取り入れていくかだと思う。子どもの主体的な学びはもちろんのこと、対話的な学び（協働的な学び）も大切にしながら、一時間の授業の中でタブレット、電子黒板、デジタル教科書等を活用していくようにしてもらいたい。「地に足のついたデジタル活用」をお願いしたい。

〇「ともに学び、ともに育つ」の支援教育の視点を踏まえた学校づくりに全校あげて取り組んでおられることが学校訪問の際にも理解できた。学校教職員の組織的対応、教員の児童観、指導観を共有することで児童一人一人のニーズに応えられると思う。指導という観点では「ともに学び、ともに育つ」の学校づくりは推進されると思います。しかしながら、やはり、大切にしてほしいのは、子どもがいわゆる「困っている子ども」（課題のある子ども、発達障がいのある子ども等）をどうとらえているかという点である。小学校の発達段階において、ともすれば、「排除」の意識の元に本来めざすべき「ともに学ぶ、ともに育つ」意識の醸成が阻害されることもありえる。学校のあらゆる教育活動で指導するのはもちろんであるが、「道徳教育」でも取り上げ、仲間の観点から考えさせる機会が子ども側にも必要になると思う。

〇マスク生活で顔の表情を見ながら話が出来なくなっています。WEB、ネットでの会話は本当の会話とは言えないと思います。コロナの時代、タブレットの授業は便利かもしれませんが、その人の感情が感じられる生の声でのコミュニケーションを大切にしてほしいです。

〇この１学期は村の給食についてマスコミが取り上げることが多く、村の給食の知名度は上がったし、阪本栄養教諭の存在感の大きさを感じさせられた。原材料費の高騰があったからではなく、それ以前から「地産地消」に取り組んでこられた本教諭の努力がここに来て注目を浴びたという感じがする。長年村の栄養教諭として勤務されており、地域とのつながりを大切にしながら、食育に取り組むその真摯な姿勢が認められたんだと思います。報道では子どもへのインタビューもあり、村の子の素直さ、純朴さが表現されており、良かったと思う。物怖じせず、インタビューに答えていた赤阪小学校の子どもにも感心した。

〇GIGA スクール構想により子ども一人一人にタブレットが与えられているが、ハード面では、持ち帰りの問題や故障への対応、更新、アプリの問題など考えていかなければいけないし、ソフト面ではいかに多くの先生が面倒なモノと考えずに便利な教具ツール（文房具）として学校全体で取り扱っていけるか、子どもに目を移すと調べ学習の際の情報選択（取捨）能力を発達段階でどうつけてやるかが重要になると思われます。子どもの発達段階を考えて取り組んでいかなければいけないと思います。

〇先日、運動会の準備に参加させて頂いたのですが、子供たちが校長先生をはじめ、先生方と楽しそうに準備をしている姿を見て、お互いに良い関係が築けているのだと感じました。

〇小学校の発達段階から「自らの命は自らで守る。その上で、他の人に力を差し出せるなら力を差し向ける」ということを徹底させるべきではないかと思う。保護者にもその点は強く啓発してもいいのかと思う。状況が異なれば、あるいは、居る場所が異なれば、その対応は変わってくる。様々な状況を考慮し、状況判断することの大切さを子どもに伝える必要がある。しかしながら、まずは「自分の命あっての・・・」を常に意識し、冷静に判断することの大切さを避難訓練等実施時には徹底すべきだと思う。先生の指示がないと動けないという子どもにならないようにし、判断能力を養う必要があります。
〇課題に対し自らの問題としてとらえ、他の意見を聞きながら討議を進めていくのが今求められる道徳教育とされているが、教科書を使用しながらもそうした授業展開ができているのか、やろうとしているのかで道徳の時間は変わってくると思う。人権教育は、道徳教育と異なり、誰がどう考えてもお互いの人権を守るべきという結論に到達する。様々な人権について考える機会が重要であるが、道徳と違って「こうすべき」ということになる。道徳の時間は、扱う道徳的価値はあるものの、様々な意見や考えは許容されるべきで、教える教師が道徳教育と人権教育の違いを理解しておく必要があると考えます。
〇少子化に伴って課外のサークル活動がほとんどなくなっています。子ども会活動はずいぶん前に消滅しました。サッカークラブやソフトボールクラブ等も廃部になっています。地域や異学年で活動することも少なくなって、地域のために何かするとか、ボランティア、社会への貢献活動をする機会が少なくなっている気がします。村内の大人の気風もめんどうなことは敬遠するというようになっている気がしてなりません。高齢者が増えたからかもしれませんが、人のために、自分の出来ることはするといった気持ちをしっかり持っている子に育って欲しいと思います。
〇２学期はテレビ放映の機会があり、テレビ画面を通して、赤阪小学校の子どもたちの元気溌剌振りが多くの人の目に届いたと思います。子どもたちもテレビということで少し緊張もあったかもしれませんが、自分たちが画面を通して映し出されるということで、自信も持ったことだろうし、改めて、郷土を意識することのできる機会になったと思う。こうしたテレビ等マスコミを活用して千早赤阪村をアピールする取り組みを今後も続けることができればいいと思う。学校、教育委員会、村当局が連携・協力して、機会あれば、今回のような取り組みを積極的に進めるべきだと思います。
〇全国小さな村や町でも　北海道でしんどいところでも起爆剤や名物でマスコミへのアピール、クラウドファンディングも考えて人が集まるようにしてほしい。移住したいというニーズに応えて欲しい。
　古民家借りてというニーズあるが制限があって実現に困難がある。
〇村の一人ひとりを大切にした手厚い教育やおいしい給食をアピール、発信することが大切ではないか。赤阪小学校と村も協力して学校のよさを訴えてほしい。街の活性化は、子供世代が必要。子供をつれてきてもらうような施策を考える事。そのためにどういう魅力をつくっていくのか。
いい前例から学んで　そこに行って　勉強してやってみようという若者がほしい。
〇保護者の意見を聞くことも大切だが、学校の方針を明確に示すことも大切だと思います。
〇全ての親を納得させるのが難しくなってきている。親のニーズをどこまで聞くのか。親が言いたいことには見えにくい本音が隠れていたりもする。便利になりすぎた世の中、ものを言ってもいい世の中になっている。学校に対しても何でも言ってもいい世の中になってきている。ハンバーガーショップのアルバイト学生も、やられているのは言い返せない。相手に安易に攻撃する世の中。どのあたりからこうなってしまったのかと思う。
〇村の子はおとなしいと言われる。村と言われるのがいやみたいに思っている。自信をもつことができるように赤阪小学校が進める「郷土に愛着や誇りがもてる教育」をもっと推し進めて欲しい。
〇村はお金がないというが、だからどうしたいのかを考える。ブランド化、付加価値化を考える。
〇学校にはあまり足を運ばなかったが、PTA 会長になっていろいろと関わることができた。土曜日の運動会もこれまではきてなかったが PTA 会長になって参加することができた。会長をしてよかった。
〇校長が転任や退職で入れ替わっても進めようとされてきた学校の教育方針をどのように受け継ぐのか。学校文化を誰が引き継ぐのか。これは　管理職だけではできない。せっかくやっていたことが途切れないように。先生方といっしょに学校づくりをしてほしい。
校長がさったらもとにもどったみたいな学校はよくある話。途切れないで引き継いで欲しい。校長が替わったら途切れるのではなく、ぜひ引き継いで欲しい。

６．第三者評価

第三者による評価は、今年度は実施していない。